

# 神戸・画人

〔3〕

## 中西 勝

〔洋画家〕



なかにし まさる  
大阪に生まれる 1956年 現在日本美術展招待出品  
1957年 日本国際美術展招待出品 1967・1970年  
メキシコ・トルコ・モロッコ・ギリシャ・グアテマラ等の僻地を  
探訪及びアメリカ・全ヨーロッパを旅す 1972年 第15回  
安井賞受賞・社会文部大臣賞受賞 1973年 モロッコ・  
中近東外遊 現・社会理事・神戸市文化賞・兵庫県文化賞受賞  
神戸大学教授 東灘区在住

## 私の繪

私は、かつて車で、はるかな世界の旅をした。

花を見つけると花を摘んだ。四年半も摘み続けた。異國の旅に伴う「孤独」性が、花の美しさと大地の大きさに魅きつけられ引きづられて、その行為を続けさせたのである。

花を摘むことで、その土地その部落の在り方、ひいては創生の根元に触れえたような満足感到にひたっていたと思う。

メキシコやモロッコの、とりわけ僻遠の地に感動を覚えたのも、土くれたインディオたちの生活が同じ触発を私に与えたからである。

「人はただ生きているだけで充分」という単純な発見、そこに深い生命の尊厳をみたと思っただけである。この原点に立って私は人が棲まうそれぞれの世界と対話を続けて、たしかに創造の力を自ら育んでゆきたいと希っている。



村の教会(プラターニ)  
30号F

# 神戸の風色

KOBE●FUSHOKU

堀内初太郎 NO.3



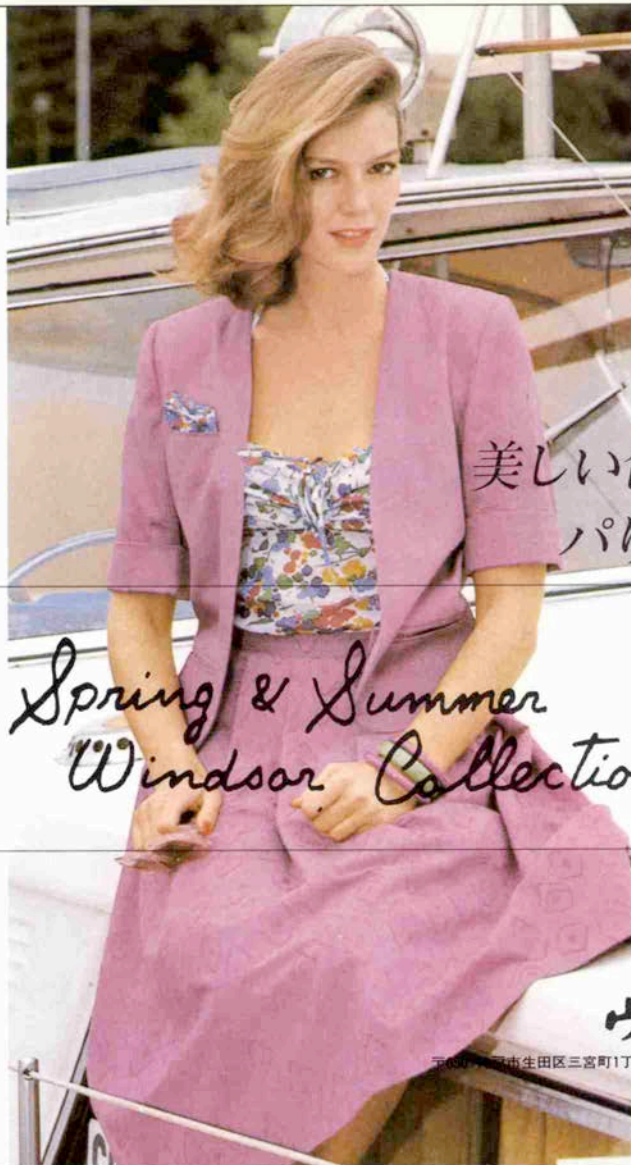


# 諸願成就



遊学縁談その他願書 絵馬は  
授け所ありき 夜参願

納 云平神社田生



美しい色づかいに  
パリが香る...

'80 Spring & Summer  
Windsor Collection

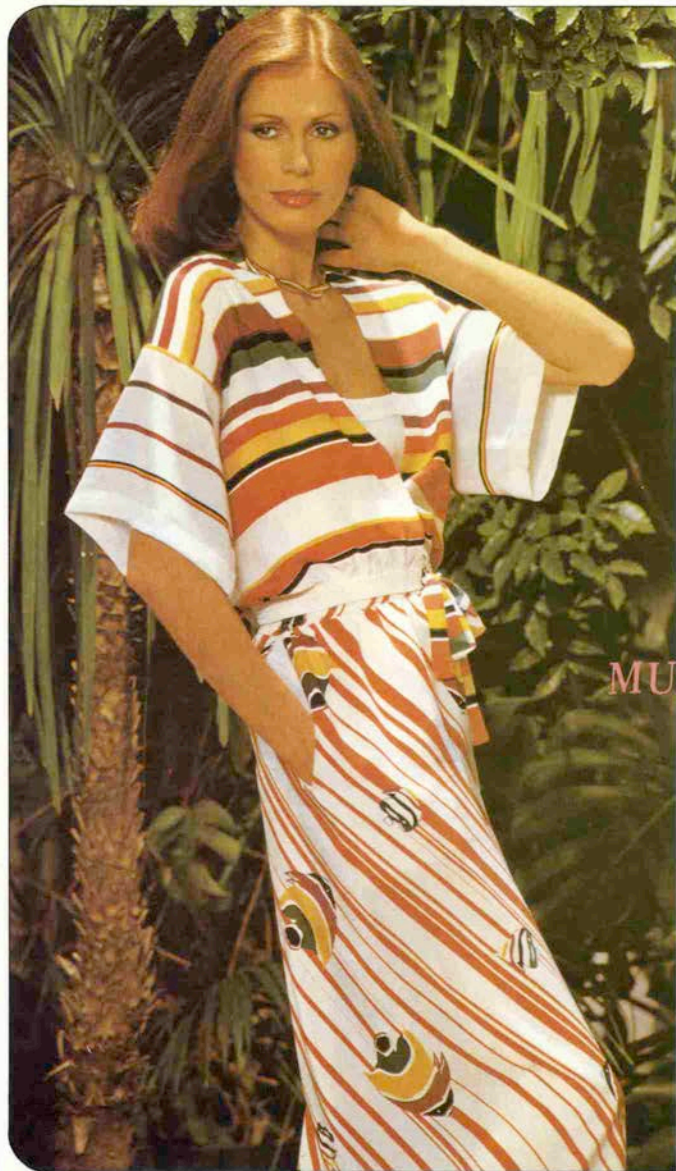


オートクチュール・ブティック

ウインザー

〒650-0001 神戸市生田区三宮町1丁目さんプラザ2F TEL (078) 331-7952





Spring  
has come

春は生命の芽ぶく時。  
長い時の蓄積から  
目覚めた美しさは、  
言葉では  
言いつくせない...  
そんな美しさを、  
際だたせる

MURATA COLLECTION

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

**ムラタ**

さんちかレディスタウン  
(神戸市生田区三宮町1丁目1)

☎ (078) 391-3886

本社

(神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル)

☎ (078) 341-8041

伝統の心を縫う  
手づくりの  
風 格



洋服 / 紳

渡 邊

神戸市葺合区磯上通8-1-33

☎ (078) 251-8501(代)

東京・大阪・神戸・姫路





## 良いものとの 出逢い

### 入園式, 入学式に

辰見 陽子さん〈西宮市在住〉

ワードローブは紺、ベージュ、茶のベーシックカラーが中心で、それを見事個性的に装う辰見さんは、二女に囲まれ、建築家のご主人と休日はもっぱらテニスです。

シャネルスーツ (D. Pallas) ¥252,000

 *ladies*  
*watanabe*

三宮町1丁目ニューセンタービル入口

TEL (078) 331-1650

10:30AM~7:00PM 水曜定休





G それは GREAT  
 G それは GENTLE  
 G それは GOOD  
 G それは OKADA TAILOR

そして

アダムG

**ADAMG**

それは…現代を着る貴男のためのファッション砦です。

服飾技術研究所 岡田 巖

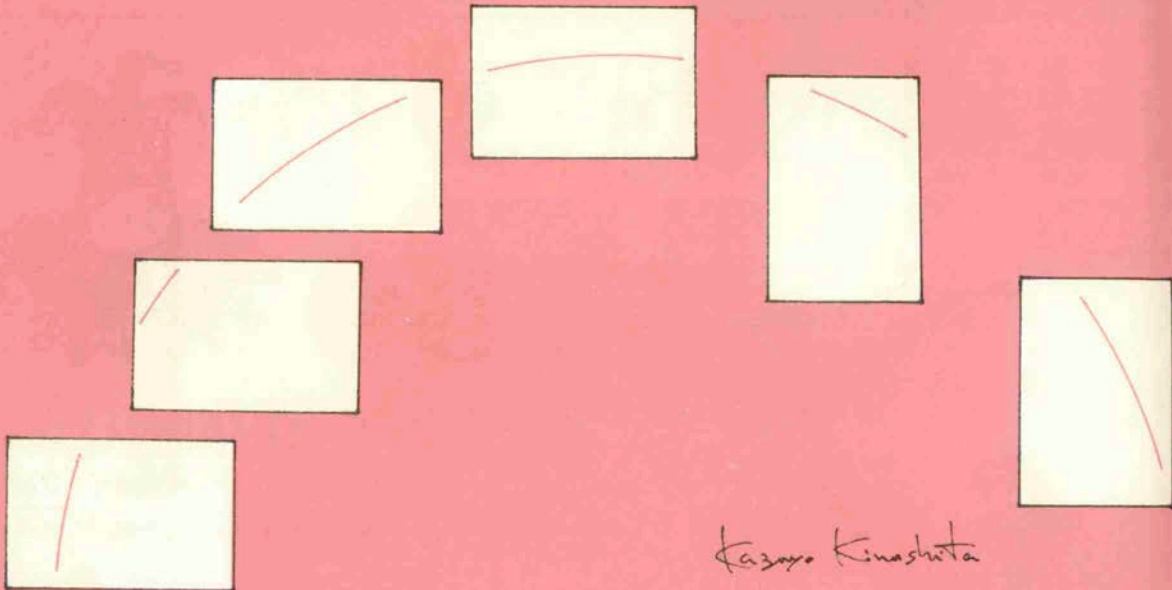
神戸市灘区御幸通6-1-15 みゆきビル607 ☎221-9314

“GRACE”号の前に立つ

南 泰吉氏

〈株式会社南ビル社長〉

〈モナコ王室専用ハーバーにて〉



Kazuo Kinoshita

これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の手帖です

3月目次 1980・NO・227

表紙／小磯良平  
セカンドカバー／僕の見た神戸(15)／西村 功

9 第九回ブルーメール賞受賞者

音楽部門／山内鈴子

美術部門／榎 忠

舞台芸術部門／坂名手庵歌舞伎・海野光子

文学部門／梅村光明

ファッション部門／市野木江充子

コウベスナック

画人・神戸(3)／中西 陽

神戸の風色(3)／堀内初太郎

わたしの意見／田島博太郎

随想／朝比奈 隆／富士正晴／望月美佐

連載エッセイ／私のひろいもの(15)／竹中 郁

神戸歳時記3／三枝和子

地域文化論7／四国村／水谷鎮介

十九周年記念座談会

新野幸次郎／外島健吉／中内 功／鬼塚喜八郎

ボーイ・アイランド情報・9

経済ボケツジジャーナル

第九回ブルーメール賞選考座談会

文学部門／小林武雄／杉山平一／安水雄和

音楽部門／吉村一夫／柴田仁／小石忠男

美術部門／赤根和生／乾 由明／増田 洋／草野拓郎

舞台芸術部門／佐野達実／小泉康夫／岡田美代

ファッション部門／福富芳美／森本泰好／藤本ハルミ／小泉美穂子

キャンペーン・国際文化都市神戸を考へる(28)

博覧会を成功に導く／オール関西の視点

水上草雄 渡部隆夫／日比野 武／鈴木 守／池田茂樹

話題のひろは11 第四回神戸文学賞・神戸女流文学賞受賞式

ノコちゃんの華麗なる食べある記(15)／小山乃里子

スロベファッション SPOT

神戸フィルム・マーケット・レポート

NEUE MODE MARCHEN・27／篠原順子

動物園飼育日記(17)／動物はなぜ群がるの? 亀井一成

六甲山100コース 徳川道／蓮沼良造

神戸を福祉の町に(75)／橋本 明

パントマイムジュエズII／岡田 淳

ファッションレポート／オールスタイル

K.F.S.ニュース

私の映画手帖(27)／いろいろあるあつて勉強したこと／淀川長治

女性百景(91)／サンフランシスコの女／細川 薫

神戸百貨店だより

びつといん

ボケツジジャーナル

連載小説／影と棲む(3)／(第四回神戸女流文学賞受賞作品)

田中佳子／絵・田中徳吉

連載小説／溶ける闇(3)／(第四回神戸文学賞受賞作品)

高木敏克／絵・木村光祐

TALK&TALK・トラベルコーナー

再びアルファベットアベニューJ／新井 満・石阪春生

海船港／ミナト神戸っ子の会

カメラ・米田定蔵／藤原保之／橋本英典／後藤 孝／速水 享  
目次作品／木下佳通代



# THE KOBECCO 19<sup>th</sup>

●月刊神戸っ子19周年記念パーティへのお誘い

第9回ブルーメール賞受賞式

VIVA世界の'80  
酒祭り'80



サンバデ ポートピア'81 4月10日(木)

午後5:30受付/6:00開演~9:00終了

於 / サンボーホール2F ★¥5,000 (チケット/のんで・たべて・踊って)



## 真帆しづき

出演

■ V I V A 世界の酒祭り'80

シヨータイム

プログラム

■ 第9回月刊神戸っ子

ブルーメール賞受賞式

■ 昭和55年度神戸酒徒番附表彰式

ポートピア'81がやってくる  
新しい街に、新しい出会いと発見を求めて  
ビバ神戸ノビバポートピア'81ノ  
春らんまんのこの神戸っ子パーティへいざ。

■ サンバデポートピア'81  
出演 / サントノーレハウスバンド

サンバ&ファツション

●お問合せ / 主催 月刊神戸っ子 / 神戸市生田区東町113ノ1大神ビル7F ☎078(331)2246

ある朝、私は虹になる。

トータルコーディネートファッション

●リサ・サロン

アクセサリ内外雑貨

●ルイ・ミッシェル

COLLEGE SHOP

●CABIN

パリ・ナウファッション

●フランス・アンドルヴィ

パリ・ナウファッション

●ジョージ・レッシュ

東京銀座・婦人靴

●ダイアナ

舶来婦人靴専門店

●Pia

ヤングファッション&ブライダルサロン

●ルベール

ヤングアダルトファッション

●ランプ

ファッションバッグ・アクセサリ

●美呂

原宿・婦人服

●CAN

銀座・婦人服

●ゲルラン

婦人服飾

●東京屋

新宿・レディスファッション

●高野

おしゃれな靴の店

●BONフカヤ

コンテンポラリーファッション

●ザ・コレクション

宝飾・ビジュエリー

●ココ山岡

東京ギンザ・レディスファッション

●三愛

FASHION  
PARK

神戸・三宮

さんぷらザ・センタープラザ<sup>2</sup>

3F



〈そこう〉が選んだ

陶器の粋



神戸三ノ宮  
そこう  
神戸 078-221 4181

題字 望月美佐

美の至高体験

色鍋島草花更紗文花瓶(高さ34.2cm)



3月の

画廊催しご案内  
●美術画廊(6階)

●2月29日(金)〜3月5日(木)

■第2回 丹波陶友会展

●3月7日(金)〜3月12日(木)

■ヨーロッパの詩情

山崎朔三油絵新作展

●3月14日(金)〜3月19日(木)

■郷愁をさそう叙情の世界

谷内六郎木版画展

●3月20日(木)〜3月26日(木)

■十三代 今右衛門作陶展

色銀島地紋「一方花」文花瓶(高さ47cm)



●写真作品についてのお問い合わせは、  
美術画廊(6階)内線655までご連絡下さいませ。

☆私の意見

## 今こそ将来への 蓄積をする時

田 島 博

〈神戸市外国語大学学長〉



最近は低成長の時代です。省エネであるとか、減量経営であるとか、マイナスの方向が非常にクローズアップされています。もちろん私の身辺にも、実際にその影響がおこっています。ところが、だからといって、何もしないでいい時期だと考えてしまうのはいけないと思います。決して楽観的な見方ではなく、この低成長時代も一直線に続くものではなく、必ず波というものがあって、いずれ将来、何らかの形でまたいい時期が来るであろうという期待もできると思うのです。だから今のこの時期に、私たちは、その低成長ムードに呪縛されてしまっ、て、何もしないでじっとしてはいけなと思うのです。つまり、将来に備えて今をうまく利用するかしないかが問題となってくるわけで、また活発に動くであろう発展の時期に力が不足していいないようにしなければならぬのだと思うのです。

例えていうなら蝶の場合です。蝶は成長過程において幼虫からサナギ、そして蝶へと変化していきます。幼虫がどんどん大きくなっていくのが高度成長期で、サナギの時代は蝶になるのをじっと待っている時です。ところが、そのサナギの期間に果して何もせずにいるのかというと、そうではないと思うのです。あの華麗な蝶となつて生まれてくるためには、何かたいへんなことがサナギの時代に内部で起こっているはずで、変身への準備が凄じい勢いでおこなわれているのでしょう。

私たちも同じことで、低成長の環境に縛られて、外からみれば何も動いていないようにでも、内でも、将来の充実のための必死の営みがおこなわれているべき時期です。低成長だ、省エネだといわれて、活動が停止してしまふのは恐ろしいことで、そういうムードに流されないように奮起する必要があると思います。今は何もしないのだという受けとめ方をしてはいけないのであってこれをプラスに生かすことを考えるべきですね。次の成長期の強いあり方のために、エネルギーを内へ向けて蓄積していかなければいけない時だと思います。

(談)





# ★月刊神戸っ子19周年記念文化賞／第9回受賞者発表

## ブルー・メール賞

副賞 各拾万円  
海の女神ブロンズ  
新谷 秀紀制作

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの三月号で十九周年を迎えました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第九回「ブルー・メール賞」(青い海)を設定し、各部門別に選考座談会を行ったうえ、左記の五人の方々に賞(彫刻家新谷 秀紀氏による海の女神のブロンズ像)をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に拾万円が授与できることになり、心からお礼申し上げます。

地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

△授賞式は4月10日(木)サンボーホール／月刊神戸っ子19周年記念パーティで行います▽

### □文学部門

選考委員 小林武雄・杉山平一・安水稔和



梅村 光明  
うめむらみつあき

△詩人▽

△安水稔和▽

### □音楽部門

選考委員 吉村一夫・柴田 仁・小石忠男



山内 鈴子  
やまうちれいこ

△ピアノリスト▽

△小石忠男▽

山内鈴子さんは才気煥発、非常に積極性をもったピアノリストだ。受賞の理由となった神戸での独奏会を含めて、この数年の成長は著しく、輝かしい音の感覚など生来の資質がいま結実したといえる。受賞は当然である。

□美術部門

選考委員

赤根和生・乾 由明・増田 洋・草野拓郎



榎<sup>えのき</sup>

ただし

忠

榎忠は発想の幅の広さと、その発想が現実と結びつく時間の早さを持っている。彼は頭の働きと手の働きが一致するという美術家に一番必要な資質を持つ人で、現在その資質の一致をみない美術家が多い中で、将来もかなりの仕事ができると思われる人である。

△増田 洋▽

□舞台芸術部門

選考委員

佐野漣箕・岡田美代・小泉康夫



海<sup>うん</sup>野<sup>の</sup>光<sup>みつ</sup>子<sup>こ</sup>

△カネディアン・アカデミー  
日本語日本文化部々長▽

青い眼の役者たちが熱演した歌舞伎十八番の「勧進帳」は二千三百名の観客を文句なしに魅了した。もうこれは日本の驚異ともいえる存在である。ここまで育てた海野先生と厳しい訓練によく応えた若い外人役者に、絶賛の拍手を贈る。

△岡田美代▽

□ファッション部門

選考委員

福富芳美・森本泰好・藤本ハルミ・小泉美喜子



市<sup>いち</sup>野<sup>の</sup>木<sup>き</sup> 江<sup>え</sup>充<sup>みこ</sup>子<sup>こ</sup>

△ニットデザイナー▽

神戸では育ちにくいオートクチュールニットの分野で、じっくり自分の勉強をして創造的な仕事をしてきた市野木さんの姿勢は立派である。また、春秋のショウで、たえず「高い次元のデザイン」を発表してきたことも評価したい。

△福富芳美▽

★ブルーメール賞協賛会社

株式会社 淡路屋 神栄石野証券株式会社  
財団法人 井植記念会 角南商事株式会社  
UCC上島珈琲本社 株式会社 そごう神戸店  
ウシオ工業株式会社 株式会社 大丸神戸店  
オールスタイル株式会社 株式会社 太陽神戸銀行  
カネポウベルエイシー(株) 田崎真珠株式会社  
カワノ株式会社 バンドー化学株式会社  
株式会社 神戸製鋼所 株式会社 ワーランド

△50音順▽



## 一生勉強の 愛陶の世界

ANAN  
あんちっく  
シリーズ  
4



美術館にいた時、運よく大好きな志野の「卯花塙」の名碗  
を手にもさせてもらい、国宝の重みと出来のすばらしさに今も  
その時の感動を忘れませんが、いつになっても思いがけな  
い焼きものに出くわしたり、未知の美を見い出したりして、  
そのつど驚きを新たに作る機会の多いことも事実です。その  
意味で愛陶の世界も一生勉強、ということに尽きますが、そ

あんちっく AN AN  
庵

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号  
センタープラザ西館3F306号

中尾 忠義 ☎392-3471

れにしても昔と違い、多くの  
美術館や画廊で様々の陶  
磁に接したり、自由に話し  
かけることのできる現代人  
の日常生活はまことに恵ま  
れたものと思います。

●3月のゲスト

青木 重雄 さん  
(元白鶴美術館主事)

## 刀剣 古美術



高村光雲原型 聖観音立像 高さ40cm ¥65,000

毎月20日 無料鑑定  
研磨、白サヤ、その他工作  
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 元町美術  
古美術

神戸市生田区元町通 6丁目25番地

三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081

## 神戸つ子19年



富士 正晴  
△作家△

普通20年を祝うみたいな気がするが、19年を一区切りとして祝うとは、一種しやれた神戸らしさがあるような気がしないでもない。

一九八〇年から一九八〇年代というごとく、20年からは「神戸つ子」20年代に入ることであるかも知れない。

この何々年代ということで、わたしは年末、年始にちよつと悩んだ。二十世紀という場合、一九〇〇年から二十世紀とはいうまい。一九〇〇年は十九世紀の完了の年で、一九〇一年が二十世紀のはじまりであるのであろう。ところが、一九八〇年代というのは一九八一年からではなく、一九八〇年からはじまるらしい。これはどうなるのか。第一世紀というのは一年からはじまるのであつて〇年という年からはじまるのではあるまい。そもそも〇年という年は存在するのだろうか。とすれば、どこかで一年つじつまの合わせることが出て来るのではないか。

こんな変てこな思案は、一昨年死んでしまった花森安治が生きておれば、ちと相談したいところであるなあと考えた。生きている淀川長治がそばにもし居れば、この人とも相談してみたい。

神戸は坂道ばかりで風通しがよくて、気質的にアツサリしているなあとと思うが、どうしてどうして、「神戸つ子」のような雑誌がこれだけつづいているとはシブトイなあとと思う。そのシブトサにしやれたところがあることも感じる。そういえば、花森安治もシブトク「暮しの手帖」をやっていたが、淀川長治も一見おだやかな紳士

風だがその芯のあたりは中々シブトそうだ。そういうところがほの見える。

小泉兄妹その他の編集スタッフは神戸のどのあたりに育ち、どんな学校を出た連中かふつと気になるが、全然わたしにはその知識がない。知りたく思うが、今はとさ知ることが出来ない。

淀川長治・花森安治はわたしの三中の先輩で、わたしが入った年に一年から五年まではようやく揃った新設校で、ひどく自由主義的な雰囲気、初代校長の近藤英也は生徒たちを紳士扱いするような人だった。だから相当のびのびと暮らせたような気がするが、花森は知っていたが淀川長治という人物は知らなかった。しかし、淀川長治の尽力で、わたしら生徒は時々松竹座へ全校一緒に行ってダグラス・フェアバンクスの冒険映画を見ることが出来た。これは感謝に値することであつた。

そういう雰囲気から淀川や花森のようにシブトイ人物が出て来たことは何とも面白い。後輩のわたしにしてがVIKINGという同人雑誌を神戸から発足させ、三十数年つづけているのだからこれもシブトイのかも知れない。

こういうシブトさは案外、神戸のキビキビした明るさが土台になって出てくるものかも知れない。

とにかく「神戸つ子」十九年はめでたい。もう大体が安泰とみていいのだろうが、余りノンキにならずにつづけて行ってもらいたい。それは出来るだろうと思ひ、まあ、ここに祝辞をのべる。おめでとう。



## 出会いと人間模様



望月 美佐  
△書道家△

「神戸っ子」はこのたび、はや二十年を迎えられるという。

心からのお祝いを申しあげ、今後ますますの発展をお祈りいたします。

一口に二十年といっても、この二十年の時代の流れは実に多様だったと思います。今でこそ、「ミニコミ」という確立した分野がありますが、昭和三十六年の創刊当時はまだまだ未開の分野だったと思われるます。

今きくと、その頃の心境が、小泉康夫編集長、小泉美喜子さんの胸の中をせつせつと脈打っていることでしょう。夢と希望に熱い血を燃やしながら、必死で頑張った二十年前の日々のことが……。

私の一つの道も、偶然その時期にスタートしたばかりでした。日展に初出品初入選ののち、三回目入選を果たし、書の道一筋に生きようと、新しく社会への第一歩を情熱をもって踏み始めたところだったからです。——やがて月日は流れ、開放的で国際性に富んだ明るい神戸の風土に育まれて、しだいに「神戸っ子」は大きくなり、そして私は、日展十回入選を契機に封建的な書の世界の中から飛び出し、一人歩きを決心することとなりました。ちょうどその頃、「神戸っ子」との出会いがあったと思います。

以来、題字を書かせていただいたり、様々なおつきあいがありましたが、「神戸っ子」を通じて、あらゆる分野の人々との出会い、この人間関係が、私の今を支えてくれる何よりの財産です。

創作の道はまた、出会いの歴史でもあります。

書の世界からとびだした0の私が学んだ対象は、人間です。人々との出会いが私の何よりの栄養となり、創作の糧となりました。

私は人間が好きです。人間の崇高さも、人間臭さも、人それぞれにつきせぬ泉をもっていて、さまざまに魅力のある「人間模様」(以前、「神戸っ子」誌上で私が書かせてもらった題字ですが……)を織りあげています。

「生きている、すべての人とふれあって、心あたため生きたいものを」——赤木健介のこの歌を私は好んで作品に書き続けていますが、今生きているというその幸せは、人間の交流の上にこそなりたっているのではないのでしょうか。

「神戸っ子」は二十年の雑誌づくりを通して、単に雑誌発行のみにとどまらず、すばらしい才能や個性や夢をもった人々——神戸っ子——を発掘し、育て、その輪を拡げてこられた、そのことに、その感度とバイタリティに、私はあらためて感服し「神戸っ子」の果たした役割の大きさを認識する思いです。

今、全国を代表するミニコミ誌となった「神戸っ子」ですが、これからも、神戸を愛する人々のふれあいの場として、また、そのふれあいから実りある何かを生み出す原動力として、力強い歩みを続けてくれることと、私は確信しています。

## 自由な発想と品格



朝比奈 隆

△指揮者△

「神戸っ子」の表紙は素晴らしい。小磯良平画伯の描く表紙は品格が漂い、それが「神戸っ子」という雑誌の中にのり移っている。何と小磯画伯の表紙絵が十八年も続いているそうだが、一貫した安定性がある。それはマナーリズムとはいわず、個性というか独自の画風というものだろう。神戸らしい洗練されたセンス、ハイカラな感じ、それでいながら気障っぽさがない……。どの号も画題は異なるのに、いつも同じ絵ではないか、と思ってしまうくらい画風が確立されている。「神戸っ子」の表紙に相応しい絵で、これは「神戸っ子」の宝物だと思う。

小磯画伯の絵を音楽にたとえるなら、クラシック音楽の中の一歩オーソドックスな正統派の音楽で、ベートーヴェンかブラームスか……。小磯画伯の絵にはクラシックな感じの中にロマンティックなところが多分にあるから、やはりブラームスだろう。最も正統的な絵と呼べるのではないだろうか。個人的なことになるが私は正統好みなのである。音楽でも何でもそうだが、正統的なものを演るのが一番難しいように思える。変わったことをすれば個性だけで何とかが格好がつくけれど「正統」というのは、無個性の中で個性をつくっていかねければいけないから技術的にも精神的にも非常に困難を要するものだ。画伯は自然にその道を進んでおられ、そういう意味で私は非常に尊敬している。画伯の絵は神戸のひとつの誇りというか、シンボルだといっても過言ではないだろう。

もう一人の神戸の象徴みたいな人、詩人の竹中郁氏とは古くからの小磯画伯の親友で名コンビだが、竹中氏は

みてると昔の（十九世紀以前）のヨーロッパの理想の男の生活をしておられるような気がしてならない。あらゆるものに関心を持って、詩に限らず文章も書くし絵も描くという。ああいう人を本当の意味でのディレッタント、「偉大な素人」という感じがする。専門の詩のことについてはあまりおっしゃらないが、小説のこと、絵のことそしてたべものの中にはかなりウルサイ。まさしくヨーロッパ、特に英仏の貴族の理想の姿、教養が高く、何でも出来て、飄々として……。竹中氏は自由だから貴族的なんだろう。小磯良平、竹中郁両氏をみると本当に「神戸の人」という感じがしてならない。

「神戸の人」には自由な気質があるように思える。この間、惜しくも他界された風月堂の吉川進氏と晩年親しくおつき合いいただいた。お菓子の老舗でありながら、そこにとどまらず、いつも何か考えておられ、お菓子のアイデアを会うたびに熱心に語りかけ聞き役に私に話して確認されていたのだろうか。絶えず発想があつてそれがとても自由にいきいきとしている。私が考えるのに神戸には城がなく武士の伝統もないことが自由な発想の起こる一因となっているのではないか。だから外部の人に対して開放的だから外国人も住み良いのだろうか。

「神戸っ子」もはやいものでもう十九年。一口で言うなら「よく発展してきた」という印象である。神戸という街との綿密なつながりと育まれた自由な気質で、新しい時代も頑張つて欲しい。八〇年代の飛躍を期待する。